

令和5年度 いのちの授業 事例集（特別支援学校）【総合的な学習の時間】

掲載数

9

管轄	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 神奈川県	小複合	総合的な学習の時間	防災教育 「災害から命を守るために～こんなときどうする？～」	防災体験型学習施設「そなエリア」で防災体験ツアーを行った。実際に地震が起き、そこから避難する体験を行ったり、震度7の地震が起きた後の町の様子を模型を見たりした。その中で、自動販売機や電柱の倒れている様子や地震によって火事の起こる様子を見ることや、テレビのニュースアナウンサーの緊迫した声やサイレンの音などを聞くことで、実際に地震が起きた時の様子を想像し、避難の大切さや自分自身に何ができるのかを考えることができた。また、避難所の様子や実際に使われている道具等を見ることで、避難所での生活の大変さを想像している様子が伺えた。	講師：「そなエリア」の職員 5・6年合同
2 神奈川県	小複合	総合的な学習の時間	防災教育 「いのちを守るために」	まず、「校外学習先の中華街で大地震が起こったら」という想定で、写真を見ながら危険と思われる個所について話し合った。「電柱や建物が倒れる」「看板や飾りが落ちてくる」「料理をしているので火事が起こる」などいろいろな気づきがあり、あわせて災害伝言ダイヤルの使い方や連絡時の内容についても学んだ。災害時に持ち出す物を選ぶ学習では、一般的に必要な物の他、「自分は目が悪いので眼鏡も必要」と自身に引き付けて考えた児童もいた。また、避難所で役立つ食品用ラップの使い方を調べ、水が不足することや寒さ対策が必要なことなど、避難所生活の具体的なイメージをもつことができた。	小4～6年で実施計8時間 その後、4年生のみ能登半島地震を受けて、テレビやインターネットの情報をもとに、さらに学習を重ねた。
3 神奈川県	高複合	総合的な学習の時間	人権学習 「デートDV防止ワークショップ」	<ul style="list-style-type: none"> ・「安心カード」（ワークシート）に自分の思う「権利」「安心できる場所」「安心できる人」「安心を守るための行動」を記入した。それを学年内で共有し、「安心できるということは」など、心といのちの安全について、ワークショップを通して安心をキーワードとした具体的な物事から考えた。 ・「断ること」も権利の一つであり、「人を傷つける行為ではない」ということを学習した。どのような断り方をすればうまくいくのか、相手に不快な気持ちを与えないのか、危険な場面を回避することができるのかななどをロールプレイを通して学習した。 	講師：エンパワメントかながわ
4 神奈川県	高1	総合的な学習の時間	防災学習 「自分と大切な人を守るための災害への備え」	大学から外部講師を招聘し、防災について、避難訓練などの体験的な学習だけでなく、今回は「自分と大切な人を守るための災害への備え」をテーマに「学校周辺の危険箇所の確認と回避の仕方」、「避難後に困る状況の想定と対応策」について講義型の学習を行った。災害を自分のことと考え、少しでも落ち着いた行動がとれるよう、災害や防災に対する理解を深めることができ、自分と大切な人の命を守るための一助とした。	講師：神奈川県立保健福祉大学 教授 知的障害教育部門高等部1年生

5	神奈川県	高複合	総合的な学習の時間	「緊急時想定歩行訓練」	伊志田分教室全学年で実施。災害時に公共交通機関の利用が不能になった際に、歩いて自宅や広域避難場所・避難所に移動することを目的とし、学校から厚木市ぼうさいの丘公園まで学年ごとに移動をした。事前指導では地図で経路を確認し、当日は災害時の注意個所を確認しながら移動を行った。ぼうさいの丘公園では、厚木市役所危機管理課の方から防災講話や備蓄倉庫の説明をしていただいた。生徒は熱心に話を聞き、気になる点は質問も行え、防災への関心が高まった。	講師：厚木市役所危機管理課職員2名 (事前に申し込みが必要) 分教室生徒
6	神奈川県	中複合	総合的な学習の時間	生まれてくるのではなく「生まれていく」視点	今年度は、長谷川義史氏の絵本を中心にその他の作者の絵本も取り入れ、年間を通じて「命」をテーマとした読み聞かせに取り組んだ。 長谷川義史作「おへそのあな」を使った絵本の読み聞かせ。おかあさんのおなかの中にいるときから、おかあさんのおへそのあなから、外界を見たり聞いたり、外界のにおいを感じたりしているという設定。主に家族の様子を感じているわけだが、自然界の音や月のささやきを聞いて、最後には自分の意志で生まれていく。 幼児は生まれる前のことを覚えているという人がいるが、もしかしたら中学部のみんなもそんな一面を持っていないかと期待して語り掛けてみた。神妙な表情で話者を見たり、じっくり考えているようなそぶりを見せたりする生徒もいた。	長谷川義史作 「おへそのあな」他
7	神奈川県	高複合	総合的な学習の時間	「性と命の教育」	高校と合同で性感染症の講義を受講し、性に関する正しい知識について学んだ。 学年別による性と命の教育を実施。その際、男女別での実施と男女合同で実施の2展開で行った。 学年ごとに指導する内容を変え、1年生は男女のからだの違いや異性との付き合い方。2年生は、若年の妊娠や感染症について。3年生は、子育てに関することに加え、SNSによる異性とのつながり(性犯罪、性被害等)についても学習を行った。	講師：保健福祉事務所の職員(高校との合同授業)、養護教諭と担任、室長(学年別の授業)
8	神奈川県	高1	総合的な学習の時間	防災宿泊学習 「災害所体験」	起震車体験や水消火器での消火訓練等行い、生徒35名教員16名が実際に学校に宿泊した。夕食、朝食は防災食の喫食体験をした。お風呂に入れない代わりに清拭を行ったり、停電時の体験として真っ暗な夜間の校内探索を小さなライトひとつで行ったりした。宿泊場所については教室内にダンボールで仕切りを作り、プライベートスペースを作ると共に、一人1枚のマットで寝る体験も行った。これらの体験から自分の命を守る大切さを実感させることができた。	協力(起震車) 横須賀市南消防署
9	神奈川県	高複合	総合的な学習の時間	中央農業高等学校との交流及び共同学習 「牛皿定食を作ろう。」	・近隣にある中央農業高等学校との交流及び共同学習として、それぞれの学校資源を活用した学習を展開した。 ・それぞれの学校から生徒を選出し、一つのグループを設定。中央農業高等学校で飼っている牛のブラッシングや牛乳を使ったカゼインプラスチックの研究、えびな支援学校のやきもの窯を使ったやきもの皿制作や頂いた苗でバケツ稲づくりなどを年間を通して行った。 ・最終回には出荷された牛と自分たちで制作したお皿を使った調理実習を行った。 ・畜産と陶芸と稲作、そして食を通して、いのちのつながりを体感することができた。	年間全8回の授業 えびな支援学校高等部の障害教育部門・肢体不自由教育部門生徒 中央農業高等学校課題研究グループ生徒